

40周年

記念対談

(完全版)

次世代の子どもたちに、
素晴らしい未来を届けよう
Special session

保険総合研究所・代表取締役

清岡 義教



春日大社・宮司

花山院 弘匡



保険総合研究所・オーナー

清岡 正教

HOKEN SOKEN

株式会社保険総合研究所®



保険総合研究所 代表取締役

清岡 義教

春日大社 宮司

花山院 弘匡

保険総合研究所 オーナー

清岡 正教

～次世代の子どもたちに、素晴らしい未来を届けよう～
Special session

清岡(オーナー):今回対談させていただくにあたり、改めて歴史を勉強させていただいたのですが、知っているようで知らないものですね。

花山院:みなさんそうですね。春日大社は、今から1300年ほど前、日本の国の繁栄と国民の幸せを願って建てられました。当時の日本



は、唐の都をモデルに平城京をつくるなど外交対策に熱心で、日本国の威厳を保つため命がけで唐に渡る遣唐使のために、安全祈願を行なったお社でもあります。

清岡(代表):先日、私たちも朝拝に参加させていただきました。

花山院:ありがとうございました。東日本大震災を始めとする様々な国難へも全ての祭典にて復興の祝詞を奏上し、さらに、

一般の方々にもお手伝いをいただきながら大祓を奏上しております。神職だけでも千度祓い、万度祓いはできますが、みなさんのお力をお借りできれば、その力は何倍にもなり、さらに神様の御加護をいただけます。毎日の奏上は、日誌に記録として残しています。今、神社に1000年前の記録が残っているように、1000年後の未来にも、こうやって私たちが毎日毎日国を思い、人を思い大祓を一生懸命さげたその思いが伝わっていきます。そしてそれは、きっと未来の人たちの心を支えてくれると思うのです。常に他人を敬い何かをできる心、これは世界に誇る日本の精神だと言えるでしょう。

清岡(オーナー):若い頃は私も会社を大きくしたい、そんなことばかり考えていましたが、仕事をしていくうちに利益よりもお客様のニーズを大切にしたいと意識が変わりました。不思議なもので、そうするとちゃんと仕事もうまくいくんですね。私たちは決して一人で生きているわけではありませんから。

花山院:「お客様をどう喜ばせようか、助けていこうか」日本の企業の在り方そのものですね。お金儲けを前提に考える欧米にはない、独特の精神だと思います。でもお金もちゃんと後からついてくる、そうやって日本は豊かになってきたんです。

清岡(オーナー):私は奈良の150世帯ほどしかない小さな村の出身なので、助け合って初めて命が繋がっていくということを肌で感じて育ってきました。一生懸命働く人も手を抜く人も含めてみんなで助け合う、あっちで半分しかお米が収穫できなかったのであれば、倍採れたところが分けたいじゃないかと。昔はそれを当たり前のようにできていたんですね。

花山院:それに口うるさいおっちゃんやおばちゃんがあちこち

花山院 弘匡 (かさんのいん ひろただ)

1962年9月7日生れ、佐賀県出身。1985年國學院大學文学部神道学科卒業。1987年より奈良の県立高校の教師として、教鞭をとる。

2008年春日大社宮司就任、現在に至る。花山院家は藤原道長の孫で関白師実の二男家忠を祖に11世紀末に創立。五摂家に次ぐ九清華家の一つで旧伯爵家。宮司は花山院家の第33代目当主にして、春日大社宮司としては明治以降で第11代目。





春日大社：回廊

にいてね、親以外の人にいっぱい叱られたものです。本当の優しさって難しいものなんです。嫌われものになるっていうのは実は非常にエネルギーのいることで、自分の中にこれだけ大切にしなければという信念があるからできる。なんでもいいよいと、優しい親でいては子どもたちに伝えられないことがある。大きくなってからでは間に合わないことがある。将来、大きな過ちや負を子どもたちが背負わないために親はあえて子どもたちにきつく接する時もある。それが愛情なんです。昔は、親だけでなく近所にもそうやって言ってくれる人が沢山いて、みんなで子どもの成長を見守っていましたが、今はそうもいかない。優しい顔をした人が本当にいい人なのか、頑固なうるさい人は本当に嫌な人なのか、時間を経たら、自ずと分かる 때가来ます。そういう人がいたからこそ、守られていたんだということを自覚するときがくるでしょう。本当の優しさは苦しくて難しい。次世代の子どもたちにどれだけの愛情を持って接しられるか、今問われているのかもしれないね。

清岡(代表)：お話が身にしみます。社長という立場になって初めて、父親が言っていたことの意味を理解することもできますし、また言いたくないことでも社員に言わなければならないときがあります。素直だった子どもも反抗期に入ってきて、どう育てていってあげるのが一番良いのかちょうど考えていたところなんです。

花山院：すごいスピードで文明が発達していますが、文明や文化が進んだからといって、人が成長するわけではないんですね。実は、1000年前の人が神様をお願いしたこと、現代の人の願いはほとんど変わらない。家族のこと、仕事のこと。願い事は1000年前の人も今の人も同じなわけです。私はむし

ろ便利になって、人とのかわりが減ってきていることで、心の成長は難しくなっているんだと思います。

清岡(代表)：人間の成長には、地域や人とのかわり方がとても大切ということですね。

花山院：そうですね、その中で日本人の美徳が磨かれていきました。正直であること、清浄であること、勤勉であることは神道の徳目です。その心が今の豊かな日本をつくりあげてきたんです。一生懸命働く人々、ゴミが落ちていない道、秒単位の正確さで到着する鉄道。外国からみたら奇跡とも言えるこの光景を、日本人は当たり前だと思って日々過ごしています。それがどれほどすごいことなのか、日本人が一番よくわかっていないのです。



清岡(オーナー)：確かに、どれも当たり前のことばかりですね。

花山院：面白い話があって、80年代に貿易摩擦によって日本の自動車メーカーがアメリカに現地工場を造ることになったんです。アメリカの自動車メーカーの労働者は真面目に働く

んですが、工場が汚れていても、飲食しながらでも、タバコを吸いながらでも、決められた仕事通りに規格を守りボルトをしっかりと締めればいいんです。給料分はきっちりと働きます。でもこれでは日本の製品は造れない。日本の工場はきれいに掃除され、飲食しながらなんでもってのほか、在庫管理・生産管理の改善を常に行い、ボルトの締め方まで美学があります。どちらも新車のうちは同じように壊れませんが、3年、5年と経つにつれてこの仕事の差は大きく品質に現れます。そのため日本のメーカーはこの日本人の考え方のシステム全体をアメリカに持ち込んだのです。どんどん業績は上がりました。面白いのはここからで、欧米の企業はこのシステムがお金儲けになる方法と判るとどんどん取り入れていきました。違いがわかりますか？同じシステムを使っている、心のあり方が日本と欧米では全く違ってきますよね。そこが、資源のない日本がこれほどまでに豊かになった理由なのです。

清岡(オーナー):でも日本人はそのすごさを当たり前のこと

だと思って気づいていないんですね。非常にもったいないですね。こうやってお話をさせていただいて、気づきを与えていただけなのは非常にありがたいことです。私は人生も後半になって、目標が非常にまっすぐになってきていますが、代表は会社も



家庭もまだまだ悩みながら一生懸命進んでいますから、今日来させていただいて、本当によかったんじゃないかと思います。

清岡(代表):私にとっては、こういう機会をいただくことが本当に大切に、社長になって3年、親になって4年。本当に変化が激しいときなんですね。自分の考えはあるものの、正しいかどうか分からない。会話していく中で教わること、伝えることで正しかったんだと理解する毎日です。その中でも父との会話は一番大事で、40年という会社の歴史を創り上げてきた人ですから尊敬もしていますし、何より今でも私より回転力も見極めも早く、引退どころか現役の社長といってもよいくらいで、非常に自分を恥ずかしく思うこともあります。見習うべき人が傍にいることを幸せに思います。今私は、たくさんの方々にお会いしながら教わっていくこと、そして継続していくことが大切だと思い、それを次に伝えてお客様の幸せ、家族

の幸せ、社員の幸せに繋がるように仕事に邁進していると思っています。

花山院:そのお気持ちは、素晴らしいですね。こういうお話をさせていただくと、ではどうしたら日本の大切な精神が受け継がれていくの?と聞かれます。私は神職で



すから、毎日神棚と仏壇を拝みましょうとお伝えしています。昔は田畑を耕す親の姿を見て子どもは育ちました。またその仕事を手伝って、いかに親が自分たちのために働いてくれているのかを身を持って知ることができました。ですが、現代はその姿を見ることも体感することもできません。一生懸命働いて帰ってきて、子どもが勉強もせずにゴロゴロしていたら、そりゃ親だって腹も立ちます。でも子どもは子どもで父親がどんな思いで働いているのか知りませんから、叱られたことに腹を立てます。そんな時、お互い面と向かっては分かり合えなくても、受験の時、何かあった時、もちろん毎日でもかまいません。神棚や仏壇に向かって自分のことを一生懸命に拜んでくれている親の後姿を子どもは見るだけで、親が自分をどんなに大切に思ってくれているのかを感じることができるでしょう。そうすればきっと、子どもたちにその精神は受け継がれていくと思います。

清岡(オーナー):そうですね。それに、日本には素晴らしい若者が本当は溢れています。私たちは、一部の放送に惑わされずに若者をしっかり育てていきましょう。

花山院:昔のように多様な能力の人を含みみんな生きていく、その精神を今の競争社会に溶け込ませることができれば、豊かな日本の社会を実現できると思います。

清岡(代表):希望が見えてきましたね。本日は、ありがとうございました。